前田重治のカウチ（北山 修蔵　撮影：木下由貴）

日本精神分析学会
第72回大会

2026年11月13日（金）— 11月15日（日）

福岡国際会議場（〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町二—一）

一会　長一鈴木 智美（可也病院／精神分析キャビネ）
一実行委員長一衞藤 暢明（福岡大学 医学部精神医学教室）

［シンポジウム］

精神分析と破壊性
—精神分析的臨床家はこの時代をいかに生き残るか—

一司　　会一白波瀬 丈一郎（Correspondence Lab）
　　池 志保（福岡県立大学人間社会学部）
一シンポジスト一富樫 公一（甲南大学）
　　衞藤 暢明（福岡大学医学部精神医学教室）
　　清野 百合（勝田クリニック／さくら精神分析研究室）
一指 定 討 論一池田 暁史（大正大学／個人開業）
　　浅井 真奈美（小泉心理相談室）

［講演と討論］

The Pathway to Suicide
The Central Role of Ego Splitting in the Suicidal State

一演　　者一レイチェル・ギボンズ（Royal College of Psychiatrists）
一司　　会一岡村 斉恵（初石病院／個人開業）
一指 定 討 論一高野 晶（北参道こころの診療所）

運営事務局
〒102-0075 東京都千代田区三番町 2 三番町 KS ビル
株式会社コンベンション リンケージ内
TEL：03-3263-8697 FAX：03-3263-8693
E-mail：jpa_am@c-linkage.co.jp
HP：https://www.seishinbunseki.jp/

シンポジウム　精神分析と破壊性―精神分析的臨床家はこの時代をいかに生き残るか―

司会：白波瀬 丈一郎、池 志保　　**11 月 15 日（日）**

シンポジスト：富樫 公一、衞藤 暢明、清野 百合　　**指定討論：池田 暁史、浅井 真奈美**

めまぐるしく変化する社会の中で、精神分析的臨床家は、複雑かつ多様な形で現れる困難を抱えた患者と向き合い、真摯に格闘してきた。臨床場面において患者が表出する破壊性は、社会のあり方やその変化と無関係ではなかったと考えられる。また、戦争や災害にさらされ、あるいは社会の中で暴力や搾取を向けられてきた弱者へのまなざしを失わなかった点においても、精神分析は重要な役割を果たしてきたと言えるだろう。

破壊性が社会の随所に現れ、急速に拡大しているように見えるこの時代において、精神分析的臨床家に期待される役割とは何であろうか。

Freud, S. が死の欲動について初めて言及したのは、『快原則の彼岸』（1920）においてであった。そこでは、死の欲動とは、有機体が本来の無機的状態へと回帰しようとする基本的傾向であることが、思弁的に論じられる。Freud は、死の欲動の臨床的な発現として、陰性治療反応、反復強迫、不安夢、マゾヒズムなどを挙げた。そして、外界へと向かう死の欲動を、破壊欲動（destructive drive）と表現した。

Freud の死の欲動概念に対しては懐疑的な見方も少なくない一方で、精神分析が関心を向けてきた対象としての破壊衝動や攻撃性は、学派を超えて、いかなる時代においても忘れ去られることはなかった。また、精神分析的臨床を取り巻く環境は大きく変化し、精神分析そのものの存在意義も問われるようになっている。

クライン派の精神分析家である Segal, H. は、現代を「反 - 心（anti-mind）」の時代と表現し、個人の内的生活や現実を否認し、破壊的な現実に直面することを拒否する傾向が存在することを指摘した。これが事実であるとすれば、それは精神分析の世界的な危機や退潮と決して無縁ではないだろう。

本シンポジウムでは、内的な破壊性に加え、社会の中に現れる破壊性をも視野に入れ、それらに対峙する精神分析的臨床家が、いかにしてこの時代を生き残るのかを論じ、精神分析の現在と未来について考えたい。

講演と討論「自殺に至る過程―自殺を引き起こす状態における自我の分裂の中心的役割

演者 : レイチェル・ギボンズ　　**11 月 14 日（土）**

司会：岡村 斉恵　　**指定討論：髙野 晶**

喪失体験の後に生じる激しい情動状態は、深刻な自我の分裂を引き起こす。この分裂は、破壊的な「加害者的側面」と、傷つきやすい「被害者的側面」とに特徴づけられ、自殺に至る過程では、しばしば前者が後者を圧倒し、自殺にまつわる空想を通して支配的になる。この自殺の精神力動的な視点は、自殺予防だけでなく、複雑な悲嘆に苦しむことの多い遺された人々の支援にも資するものである。自殺の問題を精神分析の視点で正面から捉え、心理的メカニズムをより深く理解し、人間存在の本質や、「生きようとする意志」と「死へ向かう衝動」との実存的葛藤について理解することで、危機にある人々や遺された人々の双方に対して、よりよい支援体制を築くことが可能になる。

ランチョンセミナー　　11 月 14 日（土）

1. 猿蓑対談　@筑前　「支持から洞察まで交々 (こもごも)」
演者：高野 晶　　対談：岡野 憲一郎

2. 精神分析家、日々を生きる
演者：藤山 直樹　　対談：藤内 栄太

3. 歌の言葉と精神分析の言葉　～日本語を生きて～
演者：北山 修　　司会：真﨑 由美子

4.「ネガティヴ・ケイパビリティ」をめぐって
演者：松木 邦裕　　対談：丸山 仁美

参加費

区分	事前登録	当日登録
会員（一般）	12000円	13000円
会員（院生）	9,000円	10,000円
非会員（一般）	13,000円	14,000円
非会員（院生）	11,000円	12,000円
教育研修セミナー	3,000円	3,000円
臨床ケースセミナー	3,000円	3,000円
ランチョンセミナー	1,500円	2,000円
懇親会（会員一般、非会員）	6,000円	7,000円
懇親会（会員院生）	5,000円	6,000円